



七戸町森林ビジョン



令和4年3月
七戸町

はじめに

七戸町の7割を占める森林は、所有者の財産であるとともに、私たちの暮らしにとってかけがえのない基盤であり、人類共通の財産です。

現在は、地球環境問題の表面化などから、森林の持つ多面的機能の対する期待は高まっており、持続可能な開発目標(SDGs)に貢献するためにもその機能を最大限に発揮し、持続する必要があります。

一方、生活様式の変化によって森林から暮らしが遠ざかり関心が薄れ、手入れ不足の森林が増加するなど、森林の持つ多面的機能の低下が懸念されています。

これらの課題は、全国的に共通する課題でもありますので、国においても「森林経営管理法」や「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が施行され、森林を取り巻く環境は大きく変革の時を迎えています。

先人が育て守ってきたかけがいのない森林を次世代へ引き継ぐため、目指す将来像を共有し、活力あふれる七戸町のまちづくりに繋げるため「七戸町森林ビジョン」を策定いたしました。

これからも、町民の皆様と一体となった町づくりに邁進していく所存でございますので、ご理解をいただき、共に次世代へ繋ぐ持続可能な森林づくりに努めていただきますようお願い申し上げます。

結びに、本ビジョンの策定にあたり貴重なご意見、ご提言を賜りました、七戸町森林ビジョン検討委員会の皆様や関係者の方々に心から感謝を申し上げます。

令和4年3月

七戸町長 小又 勉



目次

七戸町 森林ビジョン



はじめに

第一章	ビジョン策定にあたって	1
Ⅰ	策定の趣旨	1
1	策定の背景	1
2	策定のねらい	2
3	森林を取り巻く社会情勢	2
Ⅱ	ビジョンの位置づけ	5
Ⅲ	計画期間	6
Ⅳ	対象とする森林	6
第二章	七戸町の森林の現況	7
Ⅰ	七戸町の森林の現況	7
1	七戸町の位置・地勢	7
2	七戸町の気候	7
3	七戸町の森林を取り巻く状況情勢	8
第三章	七戸町が目指す森林の将来像	11
Ⅰ	基本理念	11
Ⅱ	目指すべき将来像	11
第四章	施策の体系	13
Ⅰ	施策の体系図	13
Ⅱ	施策の展開方向	14
	施策の展開方向 再造林や間伐等森林整備の推進	14
	施策の方向性	14
	個別施策 1 伐採跡地への再造林の推進	15
	個別施策 2 森林の健全な育成	17
	個別施策 3 適地適木による森林づくりの推進	19
	個別施策 4 路網等森林づくりのための基盤整備	20
	個別施策 5 苗木の安定供給の促進	21



施策の展開方向 森林の保全	22
施策の方向性	22
個別施策 6 災害に強い森林づくりの推進	23
個別施策 7 野生動物との共存による森林づくりの推進	25
施策の展開方向 森林づくりを支える担い手の確保・育成	26
施策の方向性	26
個別施策 8 担い手の確保と育成	27
個別施策 9 森林所有者への支援による経営意欲の向上	28
施策の展開方向 社会全体での森林づくり	29
施策の方向性	29
個別施策 10 森林環境教育等による普及啓発	29
施策の展開方向 森林を活用した地域の活性化	31
施策の方向性	31
個別施策 11 森林の多様な利用推進	31
第五章 各施策および取組の優先度	33
第六章 ビジョンの推進のための仕組み	37
Ⅰ. ビジョン推進のための体制	37
Ⅱ. ビジョン推進のための財源の確保	37
用語解説	38



第一章 ビジョン策定にあたって

1. 策定の趣旨

1. 策定の背景

私たちの暮らしや経済活動は、豊かな自然の恩恵のもとに成り立っており、それを享受するためには、経済成長と環境保全の双方が将来にわたり共生していく持続可能なまちづくりが求められます。それには、地域の生活基盤を構成する大きな要素である森林を活かしたまちづくりが必要となってきます。

森林は、所有者の財産であるとともに、水源かん養機能^{*}、山地災害の防止、大気の大気清浄化機能、木材供給や森林空間のレクリエーションへの利用など、多面的な機能を発揮することで公共的サービスを提供してくれます。

一方、生活様式の変化によって森林から暮らしが遠ざかってしまったことで関心が薄れ、手入れ不足の人工林^{*}が増加するなど、森林に関する活動の低迷が見受けられます。また、近年は集中豪雨や台風による被害など、気象災害が頻発する中で森林の持つ多面的機能の低下が懸念されています。

パリ協定^{*}の発効により、脱炭素社会の形成は全世界の目標とされ、温室効果ガス削減の一環として、森林吸収源対策も位置付けられています。国内においても、令和2(2020)年10月に2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことが表明されました。

さらに、国内では令和元(2019)年度から森林経営管理法にもとづく新たな森林管理手法が導入され、森林環境譲与税の譲与が開始されました。この森林環境譲与税は、森林の整備に関する施策や森林の整備を担うべき人材の育成及び確保、森林の有する公益的機能に関する普及啓発、木材の利用の促進などに要する費用に活用することとされています。

このような背景のもと、先人が育て守ってきた森林を次世代へ引き継ぐとともに、森林から提供される公共的サービスを楽しみ、町民、事業者等のあらゆる関係者と目指す将来像を共有するため、七戸町が目指す森林の姿とその実現に向けた方向性を示す「七戸町森林ビジョン」を策定します。

2. 策定のねらい

七戸町においても森林・林業・木材産業を取り巻く情勢は極めて厳しく、持続可能な森林づくりを進めるためには、森林の将来像を示し、総合的・計画的に施策を展開していく必要があります。

また、森林経営管理法の施行や森林環境譲与税(森林環境税)の開始にとともに、今まで以上に本町による主体的な森林整備への取組みが求められています。このため、森林を活用した中長期の方向性を示し、森林の健全化と地域の活性化を図ることで、活力あふれる七戸町のまちづくりに繋げることをねらいとします。

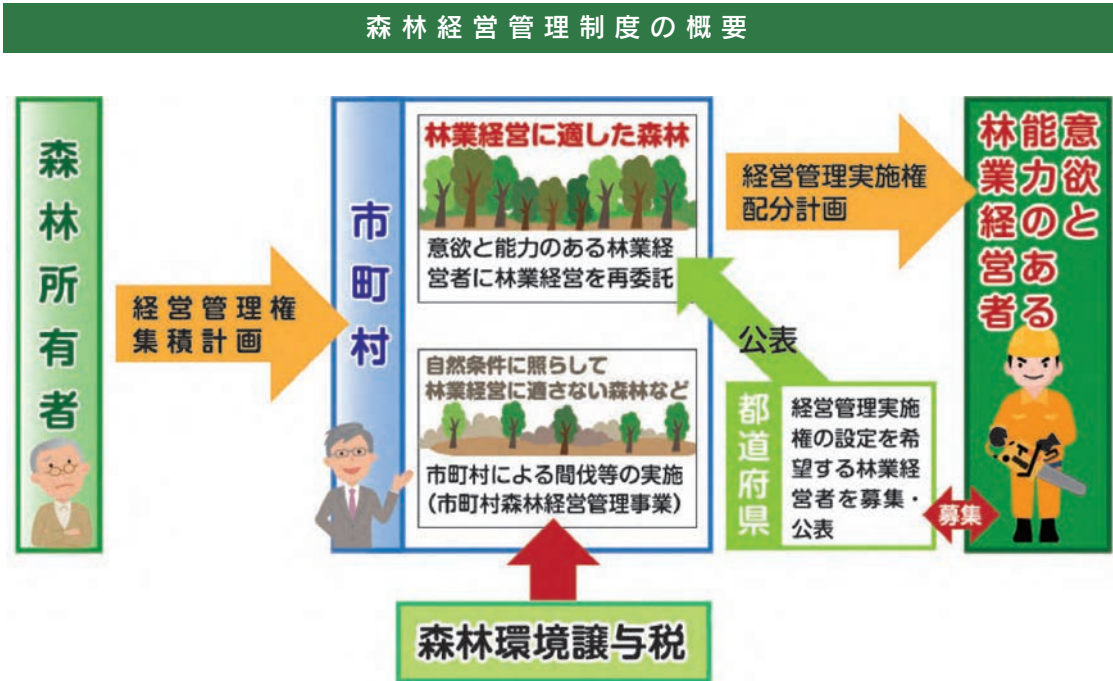
3. 森林を取り巻く社会情勢

① 森林環境譲与税(森林環境税)の創設と森林経営管理制度の導入

平成30(2018)年5月に成立した森林経営管理法を踏まえ、パリ協定の枠組みの下における温室効果ガス排出削減目標の達成や、災害防止等、森林整備に必要な地方財源を安定的に確保する視点から、平成31(2019)年3月に「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」が成立し、間伐や路網整備、人材育成、木材利用の促進など森林整備の財源として、令和元(2019)年度から各市町村に対して森林環境譲与税の譲与が開始されました。

併せて、林業の成長産業化と森林資源の適正な管理の両立を図っていくことを目指し、経営や管理が適切に行われていない森林について、市町村を介して意欲と能力のある林業経営者に集積・集約するとともに、林業経

営に適さない森林については、市町村が自ら経営管理を行っていく制度として、森林経営管理制度が平成31(2019)年4月にスタートしました。



資料：林野庁資料（青森県森林・林業基本方針より）

② 持続可能な開発目標（SDGs）

平成27(2015)年9月の国連サミットにおいて、令和12(2030)年までに国際社会が達成すべき目標として「持続可能な開発のための2030アジェンダ^{*}」が採択され、その中で持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)が示されています。その目標の中には、「15 陸の豊かさを守ろう」など森林環境に係る項目があります。

森林は、国土の保全、水源のかん養機能、地球温暖化防止、木材の生産等の多面的機能を有した大切な資源として、持続可能な開発目標(SDGs)と密接な関わりを持つため、我が国においても持続可能な開発目標への関心が高まりをみせており、森林・林業・木材利用に関わる活動に注目が集まっています。

SDGの17の目標



③ 自然災害の増加

全国的に、前線や台風などによる豪雨や地震などの自然現象が頻発することから、毎年多くの山地災害が発生しています。

七戸町でも、令和3(2021)年8月に記録的な大雨が発生し、2日間の降雨による降水量がそれまでの8月の平均降水量193.0mmを超える254.0mmを観測しました。

林道と林地災害のほか、家屋の床下浸水6件、冠水による通行止め9ヶ所、倒木が6ヶ所発生するとともに、農作物も全体で246.6haの農地が冠水・浸水するなど、被害総額2億5千万円以上の甚大な被害が生じました。

令和3年8月の大雨による被害



資料：七戸町農林課

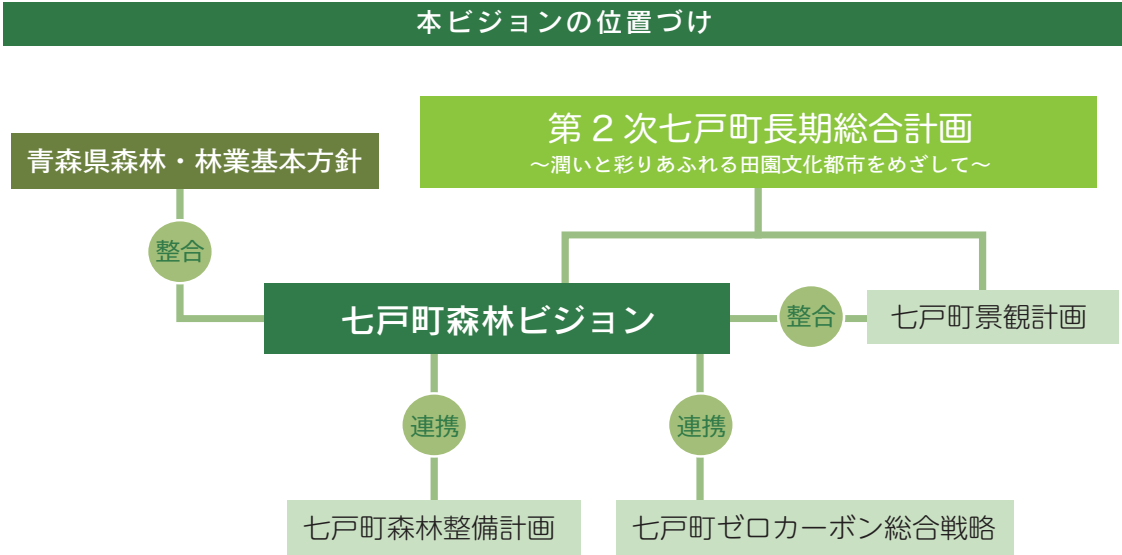


資料：七戸町農林課

II. ビジョンの位置づけ

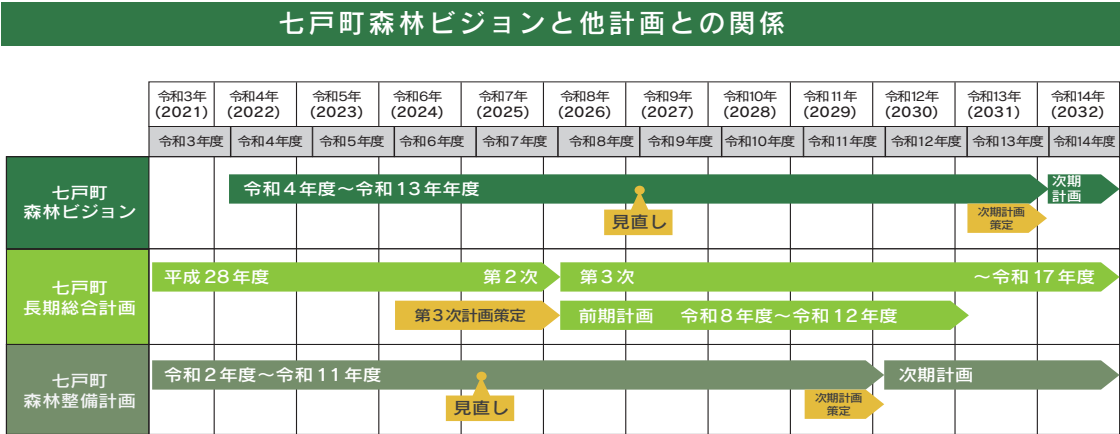
「七戸町森林ビジョン」は、七戸町の最上位計画である「第2次七戸町長期総合計画*」（平成28(2016)年3月策定）に基づく、『活力あふれる産業のまちづくり(産業の振興)』の個別計画として位置づけられます。

策定にあたっては、「青森県森林・林業基本方針*」や「七戸町森林整備計画*」、「七戸町ゼロカーボン総合戦略*」等の諸計画との整合性を図りながら、七戸町が目指すべき森林づくりの基本的な方向性と、より具体的な政策や取組みを明確化するものとします。



Ⅲ．計画期間

七戸町森林ビジョンの計画期間は、令和4(2022)年度を初年度とし、令和13(2031)年度を最終年とする10ヵ年を対象とします。また、社会情勢の変化等に柔軟に対応するため5年後に点検及び見直しを行います。



Ⅳ．対象とする森林

七戸町森林ビジョンは、七戸町の民有林を対象とするものであり、町、住民、林業事業者等、本町の森林に関わる全ての関係者を対象とします。



第二章 七戸町の森林の現況

1. 七戸町の森林の現況

1. 七戸町の位置・地勢

七戸町は、青森県の東部に位置し、北東は東北町、南は十和田市、西は青森市、平内町に接する内陸部の町です。人口は、令和3(2021)年4月1日現在14,994人で、総面積は、337.23km²です。



町の西側には標高1,000mを超える八甲田の峰々が連なり、山麓から東に伸びる丘陵は高低差が少なく、東西に貫流する河川流域に広大な農用地が広がります。町の総面積の約67%にあたる22,585haを森林が占める自然環境が豊かな地域です。

2. 七戸町の気候

七戸町の気候は、一年を通じて気象の変化が激しく、なかでも6月、7月には霧雨を伴った偏東風(ヤマセ)のため気温の低い状態が続き、11月から4月にかけては、北西の強い季節風が吹く曇天・降雪の日が多い、極めて寒さが厳しいことが特徴です。

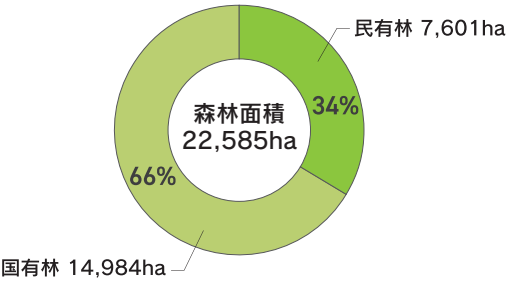
気温は、令和2(2020)年の平均で約10.3℃、最低気温は-8.6℃(過去最低-15.3℃平成18年)、最高気温は33.4℃(過去最高36.2℃平成22年)を記録しています。降水量は約9,15.5mm/年で夏季から秋季にかけて多く、春季は比較的少ない状況となっています。また、積雪量は地域によりばらつきがあり、平地では40cm~1m前後、山沿い地区で2m近くの積雪となる内陸型の豪雪地帯です。

3. 七戸町の森林を取り巻く状況

① 森林面積

七戸町の令和2(2020)年度における森林面積は22,585haで、本町総面積33,723haに占める割合は67%となっています。また、森林面積のうち民有林*が7,601haと約34%を占め、残りの14,984haが国有林*となっています。

七戸町の国有林・民有林面積割合

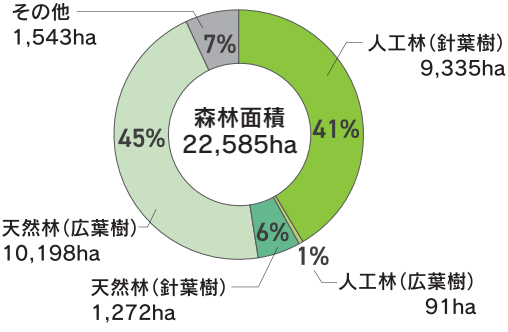


資料：令和3年度版青森県森林資源統計書

② 人工林と天然林

七戸町の民有林面積7,601haのうち、人工林の面積は4,847ha、天然林*は2,312ha、無立木地が441haとなっています。人工林率は63.8%で、県平均の55%よりも高く、人工林化の進んだ地域となっています。

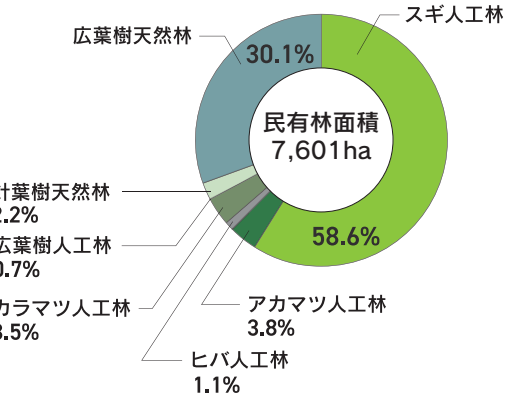
七戸町の森林分布 (人工林と天然林)



資料：令和3年度版青森県森林資源統計書

民有林を樹種別に見ると、総面積7,601haのうち、人工林ではスギ4,193ha、アカマツ270ha、ヒバ79ha、カラマツ254ha、その他針葉樹1ha、広葉樹48haとなっており、天然林では、針葉樹157ha、広葉樹2,155haとなっています。針葉樹と広葉樹の割合で見ると、およそ針葉樹70%：広葉樹30%となっています。

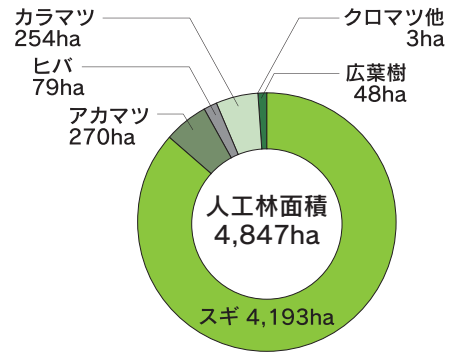
七戸町民有林樹種別面積割合



資料：令和3年度版青森県森林資源統計書

本町の人工林は、10齡級^{*}以上の森林が67%を占めており、標準伐期齡を迎えています。人工林の樹種別ではスギが約87%を占め、続いてアカマツとカラマツが約5%、ヒバが約1%を占めます。また、天然林の大部分は広葉樹となっています。

七戸町の人工林樹種別面積割合



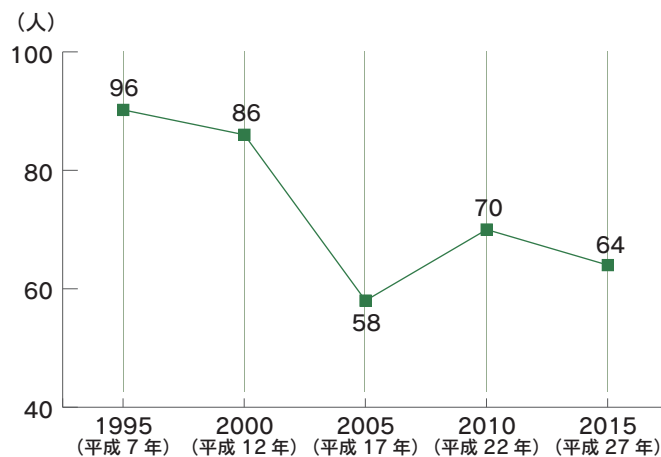
資料：令和3年度版青森県森林資源統計書

③ 林業就業者等の状況

七戸町における総世帯数に対する林家数は、わずか0.7%となっています。また、平成27(2015)年における七戸町の産業別就業者の林業就業者は、全就業者数7,894人に対し、64人となっており、その割合はわずか0.8%です。

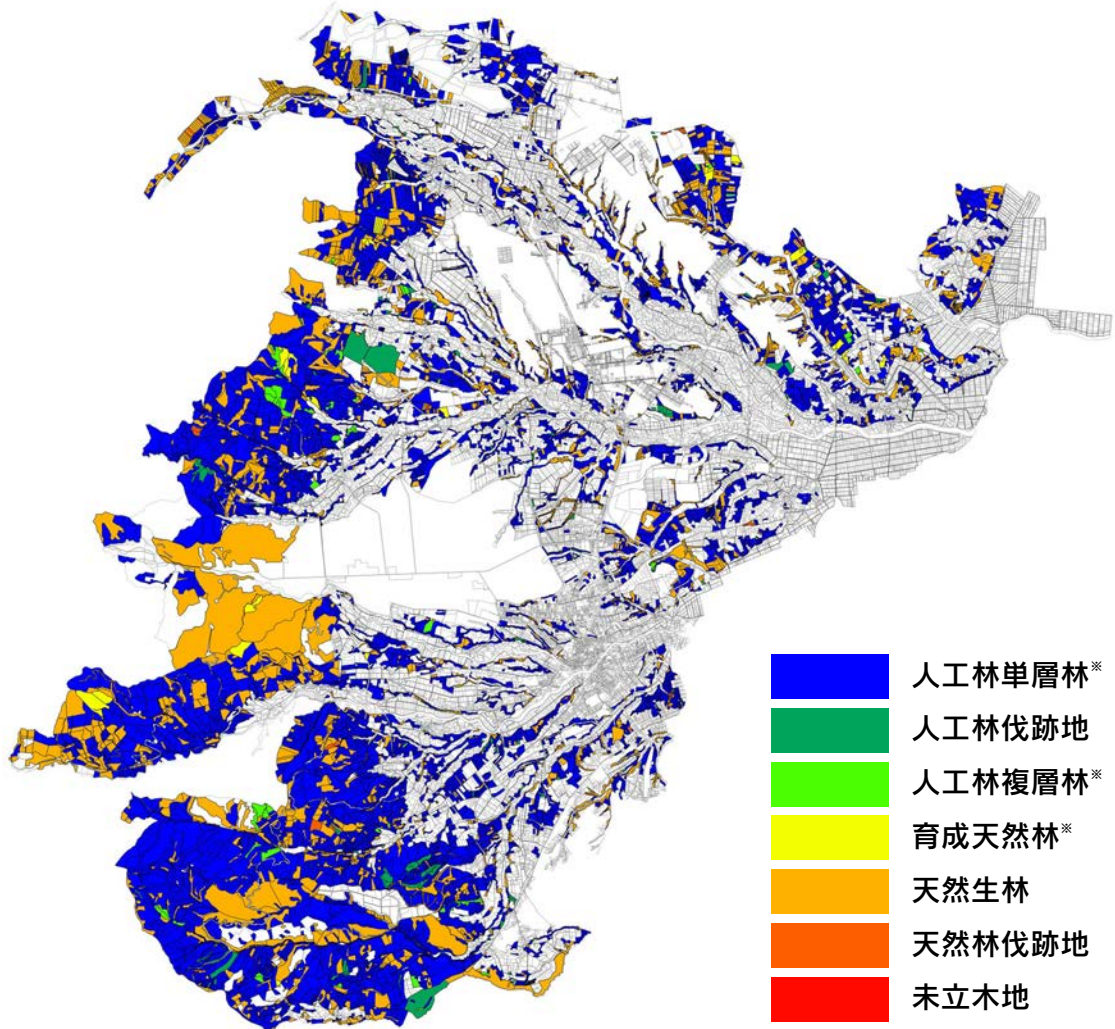
林業就業者数は、平成7(1995)年に96人、平成21(2000)年に86人、平成17(2005)年に58人と年々減少しており、平成22(2010)年には70人に増加しました。しかし、その後はふたたび減少傾向で推移しています。

七戸町における林業就業者の推移



資料：国勢調査

七戸町の森林分布





第三章 七戸町が目指す森林の将来像

I. 基本理念

持続可能な ^もり ^り森林づくり

II. 目指すべき将来像

森林の持つ特性を考慮した計画的な森林づくり

森林には、生物多様性保全機能、土砂災害防止機能、水源かん養機能、保健・レクリエーション機能など、長い年月をかけて形作られた生態系における多面的機能があります。現在は、地球環境問題の表面化などから、森林の持つ多面的機能に対する期待は高まっており、その機能を最大限に発揮し、持続できるように森林整備を実施していく必要があります。

そのため、生産条件などが良く森林施業に適した場所、森林施業に不向きな場所、管理継承の面から天然林への誘導が必要な場所など、その土地の特性にあった管理方法を検証し、町、森林所有者、林業事業者など森林づくりに関わる人々が連携した森林づくりが望まれます。

七戸町 森林の将来イメージ



第三章
七戸町が目指す森林の将来像



第四章 施策の体系

1. 施策の体系図

基本理念	施策の展開方向	個別施策
持続可能な 森林づくり	再造林や間伐等 森林整備の推進	伐採跡地への再造林の推進
		森林の健全な育成
		適地適木による森林づくりの推進
		路網等森林づくりのための基盤整備
		苗木の安定供給の促進
	森林の保全	災害に強い森林づくりの推進
		野生鳥獣との共存による森林づくりの推進
	森林づくりを支える 担い手の確保・育成	担い手の確保と育成
		森林所有者への支援による経営意欲の向上
	社会全体での森林づくり	森林環境教育等による普及啓発
	森林を活用した 地域の活性化	森林の多様な利用の推進

再造林や間伐等森林整備の推進

施策の方向性

七戸町の人工林は本格的な利用期を迎え、適切な森林管理が求められています。また、持続的な林業経営のためには資源の循環利用を図っていく必要があります。

効率的に森林の有する多面的な機能を発揮できるよう、特性にあった多様な森林づくりを進めます。そのため、森林資源・地形情報等を高精度に解析し、蓄積したデータに基づき、森林を資源循環林、天然林への誘導林、天然林に区分して、基本施策を推進していきます。



現況と課題

町内の人工林では、近隣に大型木材加工施設が立地したことなどにより、伐採面積が増加傾向にあります。しかし、伐採後の再造林^{*}が進まず放置されている森林が増加しており、植栽等による森林の再整備が必要となっています。

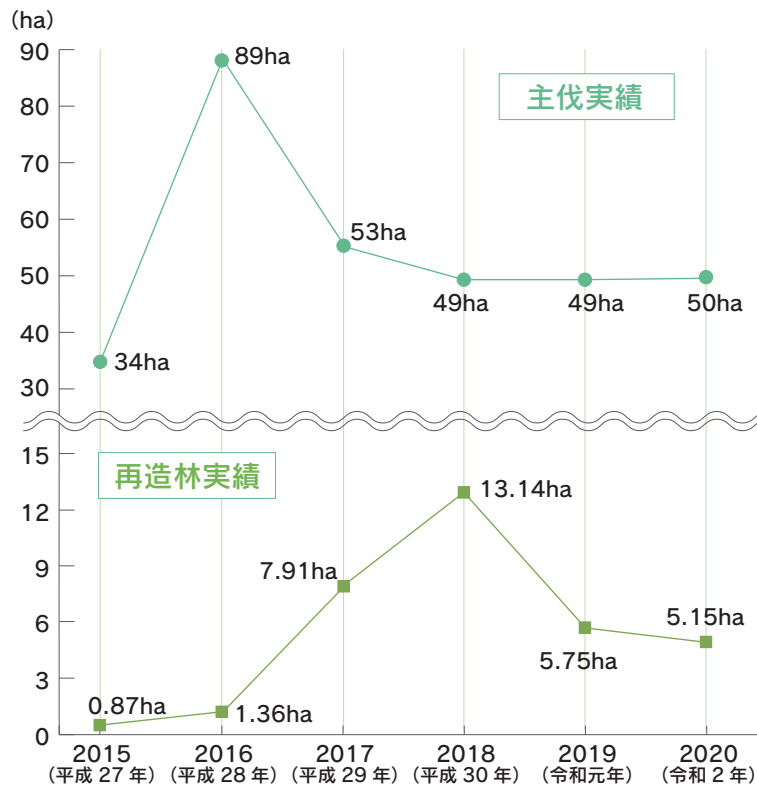
再造林が進まない要因として、再造林費用の問題や後継者不足、下刈^{*}や作業道の開設といった、植樹後の保育作業を行うための森林所有者の負担が大きいことや、後継者不足による経営意欲の減退などが挙げられます。

皆伐跡地（七戸町字八栗平）



資料：青森県上北地域県民局

七戸町の主伐実績と再造林実績（民有林）



資料：青森県調べ

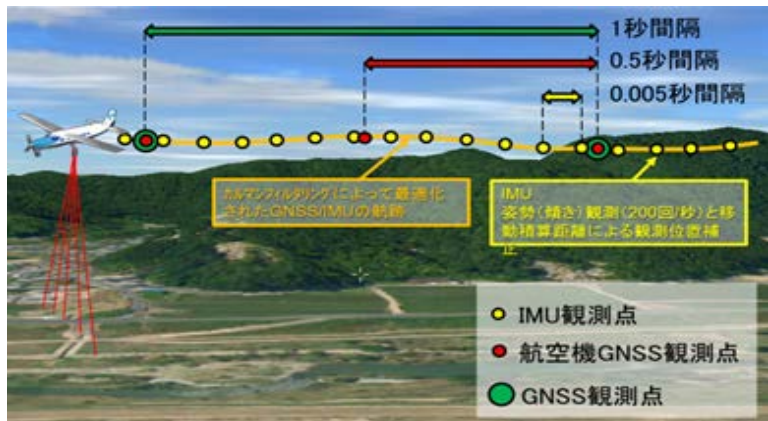
施策の目標

- 「伐採～植栽～育成」のサイクルが確立された人工林(資源循環林)
- 町と林業経営事業体、森林所有者が再造林に関わる情報共有を行う環境の整備
- 低コストで効率的な造林技術の確立と普及

主な取組み

- リモートセンシング*技術など ICT技術*の活用により森林資源情報・地形情報等を高精度に解析し、森林情報の見える化を推進します。
- 町役場に森林所有者を対象とした再造林に関わる情報共有窓口を設置します。
- 再造林に関わる各種補助金や助成金の嵩上げなどによる支援事業を推進します。

航空レーザー計測イメージ



資料：七戸町農林課



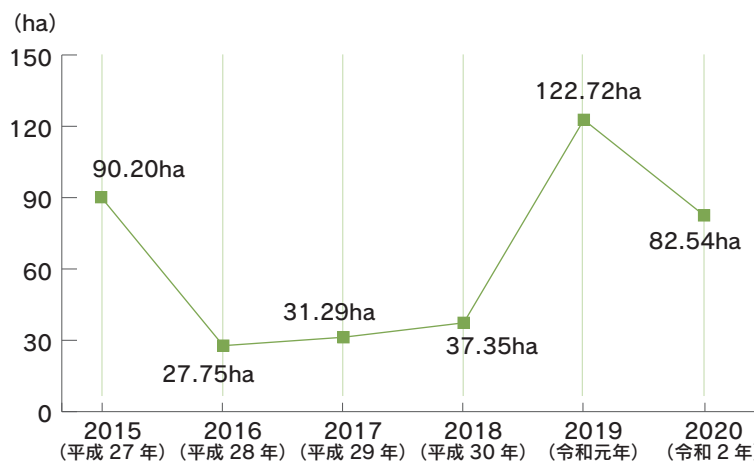
現況と課題

町内の人工林は、森林の67%が10歳級以上で伐採の適期を迎えています。

一方で、残り33%の森林は育成段階にあるものの、木材価格の低迷や間伐^{*}費用の負担増、担い手不足の問題などから、除伐^{*}や間伐等の手入れをしないままの森林が散見されます。

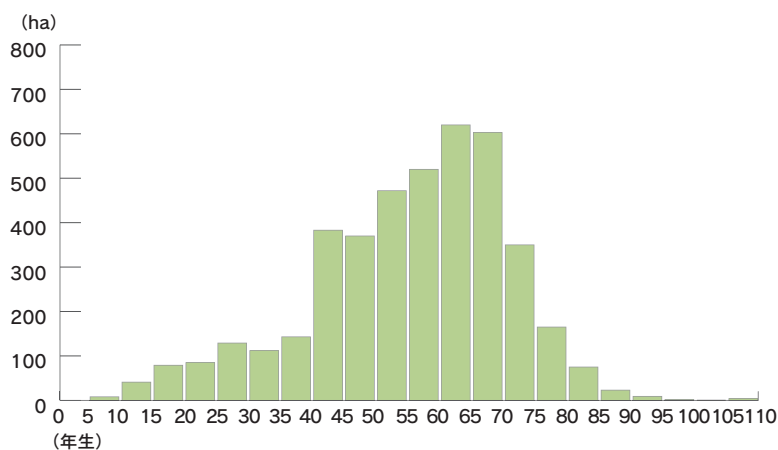
手入れ不足の森林では、森林の持つ公益的機能が十分に発揮されなくなってしまうことが懸念されるため、適切な森林整備の推進が必要となります。

七戸町の間伐実績（民有林）



資料：青森県調べ

七戸町の民有林スギ齢級別面積



資料：令和3年度版青森県森林資源統計書

施策の目標

- 生育段階に応じて適切な整備がなされた森林の構築
- 間伐等、適切な森林整備の促進による森林の公益的機能の発揮
- 作業の効率化かつ低コスト化のための、森林施業[※]の集約化[※]

主な取組み

- 「森林経営計画[※]」の作成を促進し、目標とする将来像へ向けた計画的な人工林の整備を推進します。
- 町の森林の実情に精通した推進員を配置し、森林パトロールを実施することで、間伐すべき森林の情報を把握します。
- 補助制度の活用により、間伐に係る経費面での負担軽減を促進します。
- 森林経営計画や森林経営管理制度に積極的に取組み、施業の集約化による森林整備を推進します。
- 高性能林業機械[※]の導入による作業の効率化および省力化を促進します。
- 森林GIS[※]や林地台帳の活用による管理放棄林の把握に取組みます。

間伐風景（七戸町倉岡地区）



資料：青森県上北地域県民局

高性能林業機械（ハーベスタ）



資料：青い森林業アカデミー HP より



現況と課題

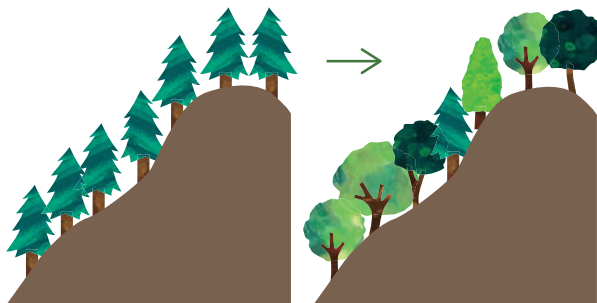
町内の伐採跡地への再造林は、ほとんどがスギにより実施されてきましたが、今後は適地適木[※]の観点から、針広混交林[※]化など、森林の適正配置などにより、森林の持つ多面的機能がより一層発揮できる森林づくりが求められます。

施策の目標

- 50年後の未来を見据え、適正な林相[※]に改良された森林
- 生育環境に適した樹種が配置された森林構成

主な取組み

- 標高や地形、気象など林地特性の把握と、林地に合わせた樹種の選定や更新方法を検討します。
- 奥山や傾斜が大きい等、地理的条件により施業が困難な場所は、天然林への誘導を図ります。
- 森林の更新に際し、潜在植生[※]に配慮した樹種の植栽を推進します。



地理的条件により施業が困難な場所は、天然林への誘導

潜在植生に配慮（ヒバ林）





現況と課題

町内の路網^{*}は令和2(2020)年度現在で、基幹路網が22路線(49.97km)、林業作業道が6路線(4.68km)あり、その総延長は、54.65kmに及んでいます。また、路網密度(延長:m/私有林面積:ha)は、7.19m/haとなっています。

森林整備作業に欠かせない高性能林業機械や大型トラックなどの通行に対応ができていない林道^{*}もあり、今後とも林道開設等による路網整備が必要です。また、複数の所有者からなる森林に開設する場合などにおいては同意を得ることが難しい箇所もあります。

上田唐松林道



資料：青森県上北地域県民局

施策の目標

- 効率的な施業のための有機的な連携がなされた路網整備
- 必要に応じた改良など、適切な維持管理がなされた路網整備

主な取組み

- 重点的に森林整備を行う区域内において、機能が低下した既設路網に対して、計画的に補修や改良を行い、その機能を維持していきます。
- 重点的に森林整備を行う区域内における路網の開設を行います。
- 国・県の事業を活用した計画的な路網開設を進め、施業の効率化を促進します。



現況と課題

町内では、上北森林組合を含め苗木生産者 4 者が林業用の苗木を生産しており、令和 2 年(2020)度の生産量は、スギ約 30 万本、ヒバ 5 万本、カラマツ 5 万本、クロマツ 1 万本となっています。

現況は、生産苗のほとんどがスギとなっています。しかし、適地適木の観点から、多様な樹種の苗を供給し、植栽していくことのできる環境づくりが課題となっています。一方で、生産者の高齢化が進んでおり、労働力の確保、後継者の育成も課題となっています。

施策の目標

- 苗木供給量などについて、町と生産者が連携し情報共有できる環境の整備
- 適地適木に則した多種多様な苗木の生産
- 苗木生産者の確保と育成

カラマツのコンテナ苗



資料：青森県上北地域県民局

主な取組み

- 植栽可能な期間が長く、活着率に優れているコンテナ苗※を普及します。
- 関係機関で苗木の樹種、供給量等について情報を共有し、苗の確保について検討を進めます。
- 先進地研修や育苗技術の修得を支援し、若手生産者の確保・育成を図ります。

スギのコンテナ苗



資料：青森県林業研究所

森林の保全

施策の方向性

管理放棄林の増加や自然災害等により森林の持つ多面的機能の低下が懸念されるなか、多面的機能を持続的に発揮させていくことが求められています。

森林の適正な整備・保全により、森林の持つ多面的機能の持続的かつ高度発揮を図り、災害に強い森林など多様で健全な森林づくりを進めていきます。



現況と課題

全国的に自然災害が増加かつ甚大化しており、防災対策の強化が求められています。町内でも、令和3(2021)年8月には記録的な大雨により水害が発生するなど、台風や集中豪雨による林道の崩落や法面の崩壊がみられます。しかし、奥地などでの現地調査が行き届いていないため土地の現況や立木の状態の把握が出来ていない状況であります。

一方で、新たに松くい虫^{*}やナラ枯れ^{*}の被害が県南地域でも発生し、将来的に町内への侵入・定着が憂慮されており、被害の早期発見や防止する対策が必要です。

施策の目標

- 計画的な森林パトロールによる適切な森林被害状況の把握
- 県と連携した松くい虫やナラ枯れ等による森林被害の早期発見体制の整備
- 山地災害危険地区における着実な治山施設の整備
- 温室効果ガス排出削減の目標達成や災害防止などの公益的機能が発揮できる森林づくり
- 林野火災や気象災害等の防止

主な取り組み

- 航空レーザー計測などにより把握した危険個所での、パトロールの強化を推進します。
- 県と連携し、異常な枯損木の早期発見体制に努めます。
- 県に治山施設の適切な整備を要請します。
- 広葉樹林や針広混交林などがバランス良く配置された多様な森林づくりを推進します。
- アクセスや施業条件が悪いなど、資源循環林として機能を発揮できない地域は、天然林への誘導や針広混交林化を図るため整備方法を検討します。
- 林野火災の防止に向けて、町民の防火意識を高めるために、普及活動を推進します。

2021(令和3)年8月の大雨による被害



資料：七戸町農林課

松くい虫による被害



資料：青森県上北地域県民局

ナラ枯れによる被害



資料：青森県上北地域県民局

針広混交林



野生動物との共存による森林 づくりの推進



個別施策 7

現況と課題

全国的に、管理放棄林の増加や奥山林において野生動物の住処となる広葉樹林の減少にともない、野生動物が人里まで下りてくるなど、生息域の拡大が進んでいます。町内でもツキノワグマの目撃例が増加傾向にあり、農作物への被害も報告されています。

さらにニホンジカが目撃報告も増えており、移入・定着、生息区域の拡大が危惧されます。現状では、ニホンジカによる大きな被害の報告はありません。しかし、ニホンジカの増加に伴う立木や下草の食害によって、植生の多様性が失われることになり、特定の植物に依存する昆虫類に影響を及ぼすなど、小動物や鳥類の生息・繁殖場所の消失する恐れがあります。また、下層植生*が消滅した場所では後継樹が育たず、森林の更新が困難になる場合もあり、表土が雨水で浸食され、治山や防災面でのリスクが高まる可能性があります。

施策の目標

- 人と野生動物とのバランスがとれ、生物多様性に富んだ豊かな自然環境を構築した森林



主な取組み

- 奥山林の広葉樹林や針広混交林への誘導を図り、野生動物の生息環境の保全を図ります。
- 森林組合、林業事業者と連携し、野生動物の森林生息域のモニタリング強化を図ります。
- 見通しを良くするなど、野生動物が侵入しにくい里山林*の整備を促進します。

森林づくりを支える担い手の確保・育成

施策の方向性

1 植栽に汗を流した“山を知る世代”から、森林作業を経験したことの無い“山を知らない世代”への転換期であることから、小学校等の学校教育の場における森林教育の機会を設けるなど、次世代も含めた森林整備の担い手の育成に努めます。

2 森林は所有者の財産でもあることから、持続可能な森林整備のためには、所有者が自らの所有林に関心を持ち、その未来を描けることが重要となります。刻々と変化する森林を取り巻く環境の変化に合わせた所有者への啓発活動や課題の共有など、町と所有者が共に森林整備について考えていく場をつくります。



現況と課題

林業など森林施業の作業等は、人力施業から高性能林業機械を導入するなど、機械化へ徐々に推移し効率化を図っています。しかし、林業従事者及び林業後継者の高齢化および不足が進み、人材の確保・育成が必要な状況です。

施策の目標

- 次代の森林づくりを担う人材育成
- 森林技術者、後継者の育成

主な取組み

- 各種メディア等で森林づくりの魅力等をPRし、若年層の就業意欲を喚起します。
- 青い森林業アカデミー[※]と連携し、現場技術者の育成を促進します。
- 新規就業者の育成や林業従事者の技術技能の習得に対して、費用面などの支援を行います。
- 町の森林の現状、地形、地質等を熟知している、地域に根ざした森林技術者の育成を図ります。

青い森林業アカデミー研修風景



青い森林業アカデミー HP より



現況と課題

林業生産性が低迷していることから、山林所有者等の林業経営に対する関心の低下による後継者不足も深刻です。林業経営が今後も持続できる環境づくりが今後の課題となります。

施策の目標

- 町の森林の未来の姿について、森林所有者と情報が共有できる環境づくり
- 森林所有者への再造林や森林整備に係る補助制度や施行事例の普及
- 森林所有者と森林との関係性を育むことによる次世代の後継者の育成

主な取組み

- 森林所有者への意識の啓発のほか、所有林の管理方法などを相談できる体制づくりを行います。
- 森林所有者への収入間伐の優良事例紹介などにより意識改革を図ります。
- 林業経営について、気軽に森林所有者が相談できる窓口を町、森林組合に設置するとともに積極的に情報提供や出前懇談会を行います。

森林所有者を交えたワークショップ



資料：青森県上北地域県民局

社会全体での森林づくり

施策の方向性

子どもたちの森林への関心と理解を醸成し、未来の森林・林業を担う人材を育成していく環境づくりに努めます。また、近年の環境問題への社会的関心の高まりにともない、森林の持つ多面的機能の向上に貢献できる森林づくりに参加する企業が増えており、企業と協働による森林づくりを推進します。

個別施策10

社会全体での森林づくり



現況と課題

近年は、地域住民による森林の保全・整備への参加や木材の生産現場への子どもたちの見学など、森林を活用した体験・学習の機会が減少し、世代を問わず森林に対する意識が希薄となっています。地域住民や林業関係者などが地域の森林の現状や課題を共有し、今後の森林づくりや森林資源の利用について意識し、実践していけるような仕組みの構築が必要となっています。

また、地球環境問題が顕在化する中で、様々な業種・業態の企業が社会貢献活動のひとつとして「企業の森林づくり」活動をはじめています。町内でも、企業の森林づくりとして、平成21(2009)年に3haと平成29(2017)年に0.1haの町有林へ植栽が行われています。

施策の目標

- 次世代を担う子どもたちが、木に親しみ森林への関心を高める事のできる環境づくり
- 町民の森林に対する理解を深めるための森林との接点づくり
- 企業や町民との協働による森林づくり

主な取組み

- 森林組合などと連携し小中学校での森林環境教育^{*}に取り組みます。
- 子どもたちを対象に、森林観察などの森林学習や植林、間伐などの林業体験を促進します。
- 森林を活用して森林教育を行うNPOやボランティア団体などによる、自律的な活動を支援します。
- 企業のCSR^{*}活動を支援し、地域との交流を通じた森林づくりを進めます。
- 森林づくり、森林空間の活用に関する活動を、町のHP、SNS等で発信していきます。
- 林業事業者や森林所有者など森林づくりに関わるプレーヤーが情報共有し、連携・協働による地域の総合力を高める場として、「森づくり連絡会議」を設置します。
- 町内の新生児に木製玩具を配布するなど、幼少期から木に触れ、森林の大切さを考えることができる事業に取組ます。

創造の森に親しむ会



資料：七戸町農林課

企業の森林づくり



資料：青森県上北地域県民局

木製玩具



森林を活用した地域の活性化

施策の方向性

ポストコロナ社会における事業活動・生活スタイルの変化などに伴い、森林の価値が見直される中、多様化する森林へのニーズに対応していくため、環境教育や余暇活動などの場として、森林空間の様々な利活用を推進します。

個別施策11

森林の多様な利用の推進



現況と課題

森林は、木材をはじめとする物質的な資源としてだけでなく、水源保護機能の発揮や憩いを提供する場、さらに森林の働きや大切さ、地域の木材などを知る学びの場としても期待されています。町内には、レクリエーションなど地域住民との交流の場として東八甲田家族旅行村や森林公園が整備され、森林に触れ合うことのできる場所はあるものの、地域の木や木材に触れ合い、知るための活用がされていません。

地元住民が森林空間を利用して、何度でも足を運びたくなり自然を身近に感じられる機会と場所の提供が必要です。

施策の目標

- 地域づくりと一体となって進められる森林づくり
- 森林の水源かん養機能の保全と、町内を潤す安定的な水資源の確保
- 森林を活用した文化の育成と地域の活性化
- 町民の交流・体験の場としての森林活用

主な取組み

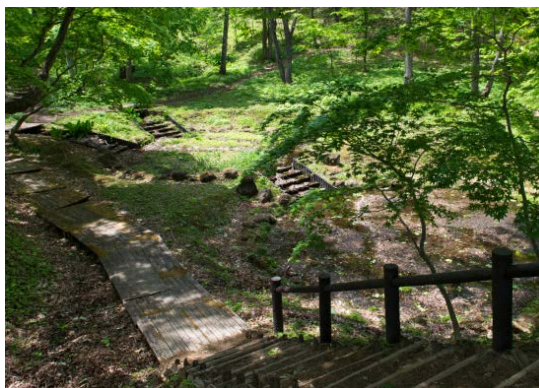
- 東八甲田家族旅行村、森林公園などの整備に地域材の利用促進を図ります。
- 八甲田山系の伏流水である「七戸の水」の水源保護のために、水源かん養林保全を推進します。
- 森林公園等で、新緑・紅葉が美しく野鳥、昆虫が好む樹種を植栽するなど、美しい景観や多様な生物とのふれあいの場の創造を図ります。
- 地域住民が森林とふれあい、交流するための森林体験事業の拡充を図ります。
- 東八甲田家族旅行村等の観光プログラムとして森林を活用します。

東八甲田家族旅行村



資料：たびくら HP より

東八甲田家族旅行村内の“創造の森”



資料：たびくら HP より



第五章 各施策および取組の優先度

本町における森林の特性、防災面等の緊急性、各産業等への波及効果等を考慮し、各施策の優先度および段階的に取り組んでいくための時間軸を整理します。短期は、前期 5年、後期 5年の、概ね 10 年以内に着手するもの、中長期は関係者とも連携しながら協議を重ね、着手していくものを表現しています。

施策の展開方向 再造林や間伐等森林整備の推進

個別施策	主な取組み (既存施策)	主な取組み (新規施策)	重点	短期		中長期
				前期 (5年)	後期 (5年)	
伐採跡地への 再造林の推進	・林地台帳の整備 ・森林GISによる 伐造届出情報の 整理	リモートセンシング技術など ICT 技術の活用による森林資源情報・地形情報等の高精度な解析による森林情報の見える化の推進	○	○		
		町役場に森林所有者を対象とした再造林に関わる情報共有窓口を設置			○	
		再造林に関わる各種補助金や助成金の高上げなど支援事業を推進			○	
森林の健全な育成	・七戸町造林補助事業による間伐の促進	「森林経営計画」の作成を促進し、目標とする将来像へ向けた計画的な人工林整備の推進	○	○		
		町の森林の実情に精通した推進員を配置し、森林パトロールを実施することによる間伐すべき森林の情報の把握			○	
		補助制度の活用による間伐に係る経費面での負担軽減を促進		○		
		森林経営計画や森林経営管理制度などによる施業の団地化・集約化の推進	○	○		
		高性能林業機械の導入による作業の効率化および省力化の促進			○	
		森林 GIS や林地台帳の活用による管理放棄林の把握	○	○		
適地適木による森林づくりの推進		標高や地形、気象など林地特性の把握と、林地に合わせた樹種の選定や更新方法の検討			○	
		奥山や傾斜が大きい等、地理的条件により施業が困難な人工林の天然林への誘導			○	
		森林の更新に際し、潜在植生に配慮した樹種の植栽を推進			○	

個別施策	主な取組み (既存施策)	主な取組み (新規施策)	重点	短期		中長期
				前期 (5年)	後期 (5年)	
路網等 森林づくり のための 基盤整備	・既設林道の維持 補修	重点的に森林整備を行う区域内における、機能が低下した既設路網に対する計画的な補修や改良の実施による機能の維持	○	○		
		重点的に森林整備を行う区域内における路網の開設			○	
		国・県の事業を活用した計画的な路網開設を進め、施業の効率化を促進			○	
苗木の安定供給 の促進		植栽可能な期間が長く、活着率に優れているコンテナ苗を普及				○
		関係機関で苗木の樹種、供給量等について情報を共有し、苗の確保について検討				○
		先進地研修や育苗技術修得の支援による若手生産者の確保・育成				○

施策の展開方向 森林の保全

個別施策	主な取組み (既存施策)	主な取組み (新規施策)	重点	短期		中長期
				前期 (5年)	後期 (5年)	
災害に強い 森林づくりの 推進	・小規模治山事業 (県)を活用した 災害の未然防止	航空レーザー計測などにより把握した危険個所での、森林パトロール強化を推進	○	○		
		県との連携による異常な枯損木の早期発見体制		○		
		県と連携による治山施設の適切な計画と更新			○	
		広葉樹林や針広混交林などがバランス良く配置された多様な森林づくりの推進				○
		アクセスや施業条件が悪いなど、資源循環林として機能を発揮できない人工林の、天然林への誘導や針広混交林化を図るため整備方法の検討				○
		林野火災の防止に向けた、町民の防火意識を高めるための普及活動の推進		○		
野生鳥獣との 共存による 森林づくりの 推進		奥山林の広葉樹林や針広混交林への誘導による野生動物の生息・生育環境の保全				○
		森林組合、林業事業者と連携した野生動物の森林生息域のモニタリング強化		○		
		見通しを良くするなど、野生動物が近づきにくい里山林の整備を促進				○

施策の展開方向 森林づくりを支える担い手の確保・育成

個別施策	主な取組み (既存施策)	主な取組み (新規施策)	重点	短期		中長期
				前期 (5年)	後期 (5年)	
担い手の 確保と育成		各種メディア等での森林づくりの魅力等のPRによる若年層の就業意欲の喚起		○		
		青い森林業アカデミーと連携した現場技術者育成の促進		○		
		新規就業者の育成や林業従事者の技術技能の取得に対する費用面などの支援			○	
		町の森林の現状、地形、地質等を熟知した地域に根ざした森林技術者の育成				○
森林所有者 への支援による 経営意欲の向上		森林所有者への意識の啓発の他所有林の管理方法などを相談できる体制づくり		○		
		収入間伐の優良事例紹介などによる森林所有者への意識改革			○	
		林業経営について、町、森林組合への気軽に森林所有者が相談できる窓口の設置や積極的な情報提供や出前懇談会の実施			○	

施策の展開方向 社会全体での森林づくり

個別施策	主な取組み (既存施策)	主な取組み (新規施策)	重点	短期		中長期
				前期 (5年)	後期 (5年)	
森林環境教育等による 普及啓発	・「企業の森(県事業)」を活用した町有林伐採跡地の植栽	森林組合などと連携した小中学校での森林環境教育への取組			○	
		子どもたちを対象とした森林観察などの森林学習や植林、間伐などの林業体験の促進		○		
		森林を活用して森林教育を行う NPO やボランティア団体などに対する自律的な活動の支援				○
		企業の CSR 活動を支援し、地域との交流を通じた森林づくり推進				○
		森林づくり、森林空間の活用に関する活動について、町のHP、SNS等での発信		○		
		林業事業者や森林所有者など森林づくりに関わるプレーヤーが情報共有し、連携・協働による地域の総合力を高める場として、「森づくり連絡会議」を設置		○		
		町有林を活用した企業やボランティア団体などへの森林づくり活動の場の提供				○

施策の展開方向 森林を活用した社会の活性化

個別施策	主な取組み (既存施策)	主な取組み (新規施策)	重点	短期		中長期	
				前期 (5年)	後期 (5年)		
森林の多様な 利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・創造の森に親しむ会 ・創造の森活用事業 	東八甲田家族旅行村、森林公園などへの整備に対する地域材の利用促進		○			
		八甲田山系の伏流水である「七戸の水」の水源保護のための水源かん養林保全の推進				○	
		森林公園等における、新緑・紅葉が美しく野鳥、昆虫が好む樹種を植栽するなど、美しい景観や多様な生物とのふれあいの場の創造					○
		地域住民が森林とふれあい、交流するための森林体験事業の拡充		○			
		東八甲田家族旅行村等、観光プログラムとして森林を活用		○			



第六章 ビジョン推進のための仕組み

I. ビジョン推進のための体制

本ビジョンの推進のため、庁内の森林・林業に関係する部署および関連の深い関係者によって構成する「七戸町森林ビジョン推進委員会」を組織します。

推進委員会のメンバーは、「七戸町森林ビジョン策定検討委員会」のメンバーを中心に構成し、毎年度(年1回程度)、本ビジョンに基づく取組みの進捗管理および他庁内施策との連携を図ります。また、毎年度の実績を踏まえながら、社会情勢や国・県の施策の動向などの時代の変化にも対応できるよう、必要に応じてビジョンの見直しを行います。

II. ビジョン推進のための財源の確保

本ビジョンの推進のため、国・県の補助金、交付金など既存の財源を活用します。また、今後、七戸町として取り組んでいく新たな森林経営管理の取組みや本ビジョンに基づく本町独自の取組みに当たっては、令和元年度に創設された森林環境譲与税(森林環境税)の活用を図ります。

用語解説

水源かん養機能

森林の土壌が、降水を貯め、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和し、流量を安定させるとともに、雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化される機能。

人工林

おもに木材の生産目的のために、苗木を植栽して育てている森林。

パリ協定

2015(平成26)年12月にフランス・パリで開催されたCOP21(国連気候変動枠組条約第21回締約国会議)で、世界約200か国が合意して成立した協定。1997(平成9)年の「京都議定書」の後を継ぎ、国際社会全体で温暖化対策を進めていくための基礎となる条約で、「世界の平均気温上昇を産業革命前と比較して、2℃より十分低く抑え、1.5℃に抑える努力を追求する」ことを目的としている。

持続可能な開発のための2030アジェンダ

2016(平成28)年から2030(令和12)年までの国際社会共通の目標で。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための国際社会共通の目標が設定されている。

第2次七戸町長期総合計画

町政の基本目標である「潤いと彩りあふれる田園文化都市をめざして」の実現に向けて、「地域連携型のまちづくり」「地域経済自立型のまちづくり」「住民参加型のまちづくり」を基本に据え、平成28年3月に策定した町政運営の指針。

七戸町ゼロカーボン総合戦略

令和3(2021)年7月7日に七戸町ゼロカーボンシティ宣言を受け、カーボンニュートラル及び循環型社会の実現に向けて、具体的な指標や再生可能エネルギー導入目標、目標達成に必要な施策等が盛り込まれた、令和4(2022)年4月に策定された計画。

青森県森林・林業基本方針

青森県の豊かな森づくりと林業の成長産業化へ向けて、「青森県基本計画『選ばれる青森』への挑戦」及び、「『攻めの農林水産業』推進基本方針」が示す政策・施策に則して、基本理念、目標のほかに具体的取組等を盛り込んだ実践プラン。

市町村森林整備計画

森林法第10条の5に基づき、市町村長がその区域内の地域森林計画対象民有林について5年ごと10年を期として樹立する造林から伐採に至るまでの総合的な森林整備計画。

民有林と国有林

国が所有する国有林以外の森林。個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれる。

天然林

自然状態で種子の落下等による発芽、切株等らの萌芽により更新された森林。

齢級

林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1～5年生を1齢級、6～10年生を2齢級と数える。

単層林

樹冠の部分が均一になっている林。同一種の樹木を同時期に植栽する人工林が多い。

複層林

樹齢や樹高の異なる樹木で構成され、樹冠の部分が何層にも分かれている林。

育成天然林

コナラやミズナラ等の天然林の抜き伐り（間伐）や伐った跡地に広葉樹等を植栽するなどして、人工的に天然林の機能を高めた林。

再造林

人工林を伐採した跡地に再び苗木を植えて人工林をつくること。

下刈

下刈とは植栽した苗木が健全に育つように、下層部に生える雑草や雑木を除去するための作業。

リモートセンシング

対象物に触れることなく、離れたところから物体の形状や性質などを観測する技術。森林整備では、植生調査や災害調査等へ活用が期待される。

ICT技術

情報処理および情報通信、つまりコンピュータやネットワークに関連する諸分野における技術・産業・設備・サービスなどの総称。森林整備では、森林情報の整備や林業経営などへの情報通信技術への活用が期待される。

間伐

成長に伴って、混み合ってきた森林の木々の一部を抜き伐る間引き作業のこと。

除伐

育てようとする樹木の生育を妨げる他の樹木を刈り払う作業。一般に、下刈を終了してから、植栽木の枝葉が茂り、互いに接し合う状態になるまでの間に数回行われる。

森林施業

伐採・造林・保育のように、人為的に森林に働きかけること。地ごしらえ・植栽・下刈り・枝打ち・除伐・つる切り・間伐などは、施業における個別の作業になる。

施業の集約化

複数の森林所有者の持つ森林をとりまとめて、路網開設から伐採までの施業を一体的に行う施業のこと。

森林経営計画

「森林所有者」または「森林の経営の委託を受けた者」が、自らが森林の経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業および保護について作成する5年を1期とする計画。

一体的なまとまりを持った森林において、計画に基づいた効率的な森林の施業と適切な森林の保護を通じて、森林の持つ多様な機能を十分に発揮させることを目的としている。

高性能林業機械

従来のチェーンソーや刈払機等の機械に比べて、作業の効率化、身体への負担の軽減等、性能が著しく高い林業機械で、ハーベスタ、プロセッサ、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤーダ、フェラーバンチャ、スキッドなどがある。

森林GIS

森林計画図や森林簿といった基本情報をデジタル処理し、個別に管理されていた図面や帳簿を一元管理するシステム。森林の現状を素早く把握し、様々な関連業務への迅速な対応が期待できる。

適地適木

林地の条件にあった樹種を選んで植栽すること。

針広混交林

針葉樹と広葉樹が混じり合った森林。

林相

森林全体の姿、形態のこと。

潜在植生

ある場所において現存する植生が人為的干渉を受けている場合、その干渉を取り除いたとき、現状の立地気候が支えることができる植生。

路網

森林内にある公道、林道、作業道の総称。または、それらを適切に組み合わせたもの。

森林施業に利用し、10トン積トラック等の走行を考慮した林業専用道。フォワーダ等の林業機械の走行を想定した森林施業用の森林作業道などがある。

林道

森林施業の実施に必要な路網の骨格となる恒久的公共施設、一部は一般車両にも利用される道。

コンテナ苗

コンテナで育苗された苗で、苗畑管理や植栽の省力化を図ることができるとともに、普通苗に比べて植栽可能な期間が長く活着率が高い傾向にある。

松くい虫被害

元気だったマツが真っ赤になって枯れる現象のこと。正式名称は、「マツ材線虫病」といい、マツノザイセンチュウという生物がもたらす伝染病。

ナラ枯れ被害

カシノナガキクイムシが病原菌である「ナラ菌」を増殖させることで、ナラ類やシイ・カシ類を枯死させる伝染病。

下層植生

植栽時期や樹種構成によって樹冠が2層以上の構造を有している森林において、下位の層に樹冠を構成する木及び草本類からなる植物集団のまとまりのこと。

里山林

人の集落の近くにあり、薪炭材伐採や落葉採取等、生活利用のために人手が加えられて環境が維持されている山のこと。

青い森林業アカデミー

地域林業の中核的担い手となる現場技術者を育成するために、青森県が開講している1年間の研修。

CSR - corporate social responsibility -

企業の社会的責任。企業が社会の一員として社会的公正や環境への配慮などを経営活動として行うべき責任のことで、コンプライアンス、消費者保護、環境配慮、労働衛生安全、人権擁護、社会貢献などが対象となる。

森林環境教育

森林内での様々な体験活動等を通じて、森林と人々の生活や環境との関係についての理解と関係を深める取組み。



七戸町森林ビジョン

発行日／令和4(2022)年3月

発行／七戸町農林課

〒039-2792

青森県上北郡七戸町字森ノ上131番地4

TEL：0176-68-2111
